

製品名: IRF-4 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12745**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	45kDa

抗原情報

遺伝子名	IRF4
別名	IRF4; MUM1; Interferon regulatory factor 4; IRF-4; Lymphocyte-specific interferon regulatory factor; LSIRF; Multiple myeloma oncogene 1; NF-EM5
遺伝子 ID	3662.0
SwissProt ID	Q15306
免疫原	抗血清はヒト IRF4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 281-330

背景

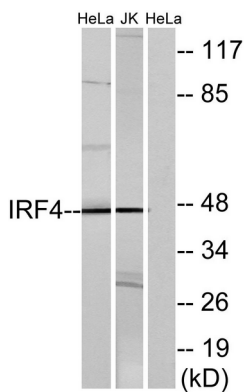
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子の IRF (インターフェロン調節因子) ファミリーに属し、ユニークなトリプ

トファンペンタッドリピート DNA 結合ドメインを特徴とします。IRF は、ウイルス感染に対するインターフェロンの調節、およびインターフェロン誘導性遺伝子の調節において重要です。このファミリーメンバーはリンパ球特異的であり、自然免疫系および獲得免疫系の活性化の中心となる Toll 様受容体 (TLR) シグナル伝達を負に制御します。この遺伝子と IgH 遺伝子座 t(6;14)(p25;q32) を含む染色体転座は、多発性骨髄腫の原因となる可能性があります。この遺伝子には、選択的スプライシング転写バリエーションが見つっています。[RefSeq 提供、2010 年 8 月]、疾患：IRF4 に関連する染色体異常は、多発性骨髄腫の原因となる可能性があります [MIM:254500]。IgH 遺伝子座 t(6;14)(p25;q32) への転座。機能：転写活性化因子。MHC クラス I プロモーターのインターフェロン刺激応答配列 (ISRE) に結合する。PU.1 と共に、免疫グロブリン 入軽鎖エンハンサーに結合する。リンパ球系細胞特異的な ISRE 標的シグナル伝達機構において役割を果たしていると考えられる。誘導：インターフェロンによって誘導されない。類似性：IRF ファミリーに属する。類似性：1 つのトリプトファン・ペンタッド・リピート DNA 結合ドメインを含む。サブユニット：SPIB および DEF6 と相互作用する。組織特異性：リンパ球系細胞。

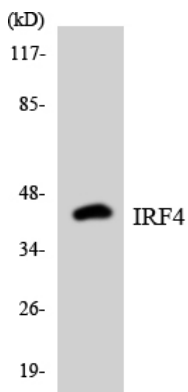
研究分野

タグとセルマーカー

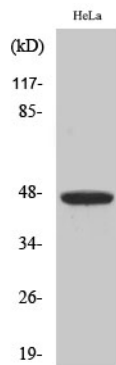
画像データ



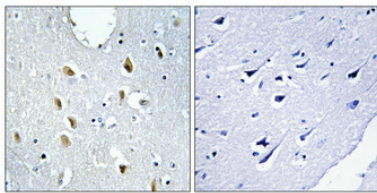
IRF4 抗体を用いた HeLa 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



IRF4 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



IRF-4 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。